

2020年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園おかだまのもり

1. 本園の教育・保育目標

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ・心身ともに健やかでよく遊ぶこども | ・自分でよく考えて、意欲的に行動するこども |
| ・思いやりのある優しく温かな心を持つこども | ・気持ちの良いあいさつができるこども |

2. 今年度の重点目標

- | |
|--|
| <p>◇ 子ども自らが意欲を持って考え選択し、試行錯誤を繰り返しながら五感を震わせ、夢中になって遊び込むことが保証される環境を心掛ける。子どもの持っている力をとことん信じ、たくさんの実体験を通して、『未来を生き抜く力』の土台を築けるよう、子ども 1 人ひとりをしっかりと捉え、適切なサポートをすることで、より豊かに逞しく、健やかに育つよう努める。</p> <p>◇ 子どもの育ちをより具体的に捉え、可視化して保護者に伝えたり共有したりする時間を大切にし、保護者との信頼関係を深めながら、子どもの成長を共に見守り・励まし・喜び合えるよう、丁寧且つ心温まる見守る保育に努める。</p> |
|--|

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保護者への対応 ～保育方針の保護者理解を深める～	コロナ禍に於いて、保護者の来園機会が減ったことを加味し、クラス・学年だより・FB・電話などで子どもの様子を伝えることを大事にした。より安心していただけるよう、園としてのねらいや願いと合わせ、今後も保護者の思いを汲み取った迅速かつ丁寧な対応を心掛けたい。
子どもへの対応 ～子どもの心に寄り添い、成長を見守り・見取る保育の在り方～	保育教諭自身も楽しみながら、子どもの自主性や主体性を大事にした保育を第1に、子どもの意欲・気付き・創造性などを育む見守りと、環境整備を大切にしながら保育を進めた。しかし、より創造的に子どもの姿を捉えた保育を進めていく点は、丁寧さや深み・見守ることと対になる心の中での応答に欠け気味だったり浅かったりしたことは否めない。子ども任せに陥らない保育教諭の意識を持ち、子どもが十分に遊び込める環境設定の配慮を心掛けていきたい。
保育の質向上のため、園内研究を充実させる。	園内研究では、園庭に焦点を絞り、子どもの主体性や遊びがより広がる環境整備を進めてきた。互いの思いを伝え合い、尊重しながらイメージを共有して取り組めたことで、充実させることができたと考える。また引き続き、同年齢のみの活動だけにとらわれず、自然な異年齢の関わりも大切にしていきたいと考える。保育の質向上の点においては、保育教諭のスキルアップが重要な要素であることを再認識し、一致団結しながらの底上げを課題としたい。
自然体験による育ちの支援	畑を借用しての栽培・収穫活動では、楽しさの中にも、自然との繋がりや命の大切さを学べた。食育活動にもつなげることができ、良かった。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>子どもの育ちの質を保つための丁寧な保育の在り方、保育教諭の役割など、過去に囚われない考えや目の前にいる子どもたちを主語にした見守りの保育を進めるよう努めてきた。各コーナーでも、乳児と幼児が自然に触れ合って遊び込んでいる姿がたくさん見られ、優しく思いやる心が育ったと感じる。今後もより進化・深化できるように研修を重ね、園内・室内環境の更なる質向上を目指したい。また、コロナ禍により行事や活動の見直しを進めることができた点はとても良かったと考える。しかし、子どもの育ちの為には、保育教諭自身の育ちも重要であるからこそ、課題としっかり向き合いながら、積極的な見直しを図れるよう尽力していきたい。保護者や地域からも、信頼を失わないよう、積極的なコミュニケーションを心掛け、【共育】の大切さを感じてもらえるよう、教職員一同が心温まる関わりができるよう努めたい。</p>
--